

来週の市場とレート予想

	7/24 (月)	7/25 (火)	7/26 (水)	7/27 (木)	7/28 (金)
無担保O/N	△0.086% ~ 0.001%				
銀行券	△ 200	ト ン	ト ン	△ 1,000	△ 1,000
財政他	△ 700	△ 4,000	ト ン	△ 4,000	ト ン
資金需給	△ 900	△ 4,000	ト ン	△ 5,000	△ 1,000
主な要因	国庫短期証券発行・償還 (3M) 交付税特会借入・償還			国債発行(40年) 交付税特会借入・償還	
オペ期日	共通担保(全店) △ 1,300 CP等買入 △ 200				
オペスタート	共通担保(全店) + 1,300 ETF買入 + 700	短国買入 + 15,000			
(日本)	営業毎旬報告(7/20現在) 保有する国債の銘柄別残高 (日銀) 国庫短期証券の銘柄別 買入額(日銀)	金融政策決定会合の議事要旨 (6/15・16分)	中曾日銀副総裁、 広島金懇に出席 企業向けサービス価格指数(6月)		金融政策決定会合の主な意見 (7/19・20分) 完全失業率(6月) 家計調査(6月) 消費者物価指数 (全国6月、東京都区部7月) 有効求人倍率(6月)
(海外)	米 中古住宅販売件数(6月) 欧 ユーロ圏総合PMI(7月速報値)	米 FOMC(26日まで) 米 FHFA住宅価格指数(5月) 米 S&Pケース・シャー住宅価格指数 (5月) 米 消費者信頼感指数(7月)	米 FOMC声明発表 米 新築住宅販売件数(6月) 英 4-6月GDP(速報値)	米 新規失業保険申請件数 (22日終了週) 米 耐久財受注(6月) 米 クォールズ次期FRB副議長の 指名承認公聴会	米 4-6月GDP(速報値) 米 ミネアポリス連銀総裁 タウンホールイベントで発言

【インターバンク市場】

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.04 ~ 0.001
SPOT 2M	△0.02 ~ 0.001
SPOT 3M	△0.01 ~ 0.001
SPOT 6M	△0.01 ~ 0.001

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、国債の発行を主に前週比2兆3,600億円減の356兆7,300億円から始まった。19日には国債買入オペを主に増加し358兆4,500億円となった。その後は357兆円台で推移し、357兆4,700億円を越えた。無担保コールON物は、積み期初となることから、ビッドサイドが慎重な動きとなった。出合レートは週を通して地銀業態が△0.04%台、信託業態等は△0.07%近辺だった。このため、加重平均金利は先週末の△0.042%より低下し、週を通して△0.056~△0.054%のレンジ推移した。ターム物は月内物を中心に△0.04%台での取引が中心であった。19・20日に行われた金融政策決定会合では、金融政策を据え置いたが、展望レポートでは物価2%程度達成時期を「2018年度頃」から「2019年度頃」に先送りし、物価の見通しを17年度+1.1%(前回+1.4%)、18年度+1.5%(前回+1.7%)と下方修正した。実質GDP見通しについては17年度+1.8%(前回+1.6%)、18年度+1.4%(前回+1.3%)と上方修正した。来週は、決定会合主な意見(28日)、完全失業率(28日)、CPI(28日)、海外では、FOMC(25-26日)、米国4-6月GDP速報値(28日)などが予定されている。

【オープン市場】

CP3M(a-1+)	マイナス ~ 0.001
TDB 3M	△0.135 ~ △0.105
現先(on/1w)	△0.100 ~ 0.000

<CP>

今週の入札発行総額は約5,500億円で、週間償還額の約2,300億円(金融機関・ABCP除く)を上回った。5・10日発行が重なったこともあって、発行超となった。発行レートは、投資家の根強い運用ニーズもあって、多くの銘柄で0%近辺での出合いがあった。来週の償還額は、月末日償還分(約8,200億円)を含め、1兆2,000億円程度となっている。ショートターム物を中心に、幅広い企業からの発行が予想される。発行レートは、投資家の強い運用ニーズは変わらないものの、深いマイナスでの出合いは減少し、引き続き0%近辺での出合いが中心となるだろう。26日に、CP等買入オペが3,500億円程度オファーされる予定。現先レートは、-0.100%~0%程度の出合いで、横這い圏内での動きを予想する。

<TDB>

18日に国庫短期証券1Y第696回債の入札が行われ、最高落札レート△0.1138%(前回債△0.1128%)、平均落札レート△0.1158%(同△0.1158%)と前回債とほぼ変わらず。19日の3M697回債の入札は最高落札レート△0.1082%(前回債△0.1033%)、平均落札レート△0.1106%(同△0.1082%)と前回債からややレートが低下した。週末のセカンダリー市場では需給の改善が見られ、3Mが△0.128%、1Yが△0.121%と強めの出合が見られた。来週は27日に3M物の入札が予定されている。

<レポ>

足許GCは週初△0.09~08%近辺で始まり、以降同レベルで推移。短国3Mの発行日である24日受渡しも、水準に大きな変化は見られなかった。週末には国庫短期証券買入オペが1兆5000億円オファーされ、△0.10%近辺に低下し越えた。SC取引では、10年347回債が週を通して△0.20~△0.15%近辺の出合い。10年335回債は、週初△0.30%台の水準であったが、週後半は△0.10%台半ばで多く取引された。その他2年377・378回債、5年130・131・132回債、10年333・334・336・342・343・344・345・346回債、20年160・161回債、30年55回債、40年9・10回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。